

2024年1月

第33回日本医療薬学会年会実施報告書

第33回日本医療薬学会年会
年会長 三浦 昌朋
秋田大学大学院医学系研究科
薬物動態学講座 教授

事業名：第33回日本医療薬学会年会

主催者名：一般社団法人日本医療薬学会

年会長：三浦昌朋（秋田大学大学院医学系研究科薬物動態学講座 教授）

会 頭：山本康次郎（群馬大学医学部附属病院 薬剤部長）

後 援：一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本薬剤師会、
一般社団法人秋田県病院薬剤師会、一般社団法人秋田県薬剤師会、
一般社団法人宮城県病院薬剤師会、一般社団法人宮城県薬剤師会、
東北病院薬剤師会、日本薬科機器協会

実施日程：2023年11月3日(金・祝)～5日(日) 現地開催

2023年11月21日(火)～2024年1月19日(金) オンデマンド配信

実施場所：仙台国際センター 〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

東北大学百周年記念会館川内萩ホール 〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内 40

会場数 口演会場：15会場

ポスター会場：1会場

展示会場：1会場

年会の趣旨

2023年11月3日(金)から5日(日)の3日間、第33回日本医療薬学会年会を宮城県仙台市・仙台国際センターと東北大学百周年記念会館川内萩ホールで現地開催し、その後2023年11月21日(火)から1月19日(金)までオンデマンド配信を行った。

第33回年会は2011年に起きた東日本大震災から12年を迎えた年の開催となった。これまでの12年を振り返ると薬剤師の臨床業務は大きく変わり、2012年の病棟薬剤業務実施加算の新設から今日に至るまでに病棟・ICU・手術室等に薬剤師が配置され、多職種との連携強化や、タスクシフト/シェアが求められるようになった。病院薬剤師と保険薬局薬剤師間の連携もより一層強化されるようになり、様々なツールを用いた患者情報の共有化が図られている。一方で薬剤師が扱える医療技術の1つであるTDMの対象薬として2012年イマチニブ、2018年スニチニブ、2022年クロザピンが追加され、遺伝子情報を活用し

た治療計画立案可能な薬剤も増えている。この先の12年、社会の変化や時代のニーズに我々薬剤師も柔軟に対応していく必要があるが、その都度データを収集し、分析基盤を構築、そしてエビデンスを創出していくことが求められる。加えてより良質な医療を提供するために新規医療技術や新規薬物治療法の開発も求められ、継続的に臨床研究を実施していくことが求められる。しかし一方で、他職種からの要望に柔軟に対応する結果、臨床薬剤師の業務量は増え続けており、薬剤師の業務量を軽減させ、業務時間を短縮させる取り組みも必要であり、現場ニーズに対応した新規医療機器等の開発や導入も求められる。この先12年の未来を創るために、今我々がしなければならないことを共に考え、共有しあえる場となることを願い、本年会のメインテーマを「医療薬学のこの先12年へのメッセージ」に設定した。

本年会では、現地開催を主として、特別講演4題、教育講演1題、シンポジウムとして、特別企画シンポジウム1件、International Symposium など医療薬学会委員会企画シンポジウム5件の6セッション、公募シンポジウムで応募のあった111件の中から66件を採択し、一般演題として口頭発表377題、ポスター1107題を採択した。その他、市民公開講座、各受賞講演、ワークショップ1セッションを開催した。

会費等の設定：

参加費	正会員	非会員	学生(会員)	学生(非会員)
事前参加登録	10,000 円	18,000 円	無料	3,000 円
直前・当日参加登録	15,000 円	23,000 円	2,000 円	5,000 円

海外参加者：10,000 円

プログラム集：3,000 円

市民公開講座：無料

事業内容：

1. メインテーマ「医療薬学のこの先12年へのメッセージ」
2. 年会長講演 1 題
3. 会頭講演 1 題
4. 特別講演 4 題
5. 教育講演 1 題
6. 日本医療薬学会 学会賞・学術賞・奨励賞受賞講演 6 題
7. 日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 10 題
8. 特別企画シンポジウム 1 セッション (5 題)
9. International Symposium (国際シンポジウム) 2 セッション (9 題)

10. 医療薬学会委員会企画シンポジウム 4セッション
11. 公募シンポジウム 66 セッション (320 題)
12. 市民公開講座 1 セッション
13. ワークショップ 1 セッション
14. 一般演題 1,479 題
 - 1) 口頭 376 題 (うち優秀演題候補 40 題)
 - 2) ポスター 1,103 題
15. International Session 34 題
 - 1) Oral 10 題 (うち会員の 9 題が優秀演題候補)
 - 2) Poster 24 題
16. 共催セミナー 26 セッション
17. 日本薬科機器協会 ワークショップ
18. 企業展示 29 社

参加登録者数:

	参加登録					
	正会員	非会員	学生(会員)	学生(非会員)	名誉会員	海外
事前登録	6,204	1,407	92	15	8	-
直前・当日登録	1,664	871	21	13	0	18
計	10,313 名					

招待者：国内 38 名、海外 6 名

総参加者数：10,357 名

運営組織：

年会長 三浦昌朋 秋田大学大学院医学系研究科
 組織・実行委員長 赤嶺由美子 秋田大学医学部附属病院
 組織委員
 荒木拓也 群馬大学医学部附属病院
 石澤啓介 徳島大学病院
 井関 健 元北海道大学薬学研究院教授／北海道大学名誉教授
 岡田浩司 東北医科薬科大学病院
 加賀谷英彰 秋田大学医学部附属病院
 工藤賢三 岩手医科大学附属病院
 黒田純子 福島県立医科大学附属病院
 菅原 満 北海道大学病院
 田崎嘉一 旭川医科大学病院

富岡佳久	東北大学大学院薬学研究科
新潟丈典	弘前大学医学部附属病院
福土将秀	札幌医科大学附属病院
本間真人	筑波大学附属病院
眞野成康	東北大学病院
山口浩明	山形大学医学部附属病院
実行委員	
朝賀純一	岩手医科大学附属病院
阿部真也	株式会社ツルハホールディングス
小倉次郎	山形大学医学部附属病院
菊地正史	東北大学病院
工藤正純	弘前大学医学部附属病院
熊谷茉歩	秋田大学医学部附属病院
齊藤 伸	秋田県立循環器・脳脊髄センター
田口 伸	秋田赤十字病院
武隈 洋	北海道大学病院
中馬真幸	旭川医科大学病院
土屋雅美	宮城県立がんセンター
中居 肇	大館市立総合病院
福司弥生	秋田大学医学部附属病院
藤田一馬	秋田大学医学部附属病院
藤山信弘	秋田大学医学部附属病院
前川正充	東北大学病院
松本洋太郎	東北大学大学院薬学研究科
柳下博信	秋田大学医学部附属病院
横田隼人	秋田大学医学部附属病院
和地 徹	秋田赤十字病院

(敬称略・五十音順)

事業成果

第33回日本医療薬学会年會を2023年11月3日(金)から5日(日)の3日間、宮城県仙台市・仙台国際センターと東北大学百周年記念會館川内萩ホールを会場に現地開催し、その後2023年11月21日(火)から1月19日(金)までオンデマンド配信を行った。講演要旨集は電子抄録集「抄録集アプリ」として、現地用にアプリ版とオンデマンド配信用にweb版(印刷可能)の2種類用意した。アプリ版は現地でプログラム検索、抄録閲覧、

自身のスケジュール管理を簡単にできるようにし、使用頻度の高いアイコンを上部へ、さらに色分けして大きくする工夫を行った。

コロナの終息に伴い第 32 回年会から現地開催を再開しているが、第 32 回年会の現地参加者数が 2,455 名(全参加者の 24%)であったのに対し、本年会では 4,754 名と、全参加登録者 10,313 名の約半数(46%)が現地参加し、徐々にコロナ禍前の環境に戻る傾向がみられた。本年会への総参加者は、参加登録者 10,313 名と招待者 44 名を合わせて、計 10,357 名であった。

本年会のメインテーマを「医療薬学のこの先 12 年へのメッセージ」にした。設定の根拠は上記に記している。

特別講演 1 では文部科学省高等教育局医学教育課の大久保正人先生に「大きく変貌する社会で活躍する薬剤師」、特別講演 2 では秋田大学大学院医学系研究科血液腎臓膠原病内科学講座の高橋直人先生に「経口薬で白血病を治す—CML に対する分子標的療法の挑戦」、特別講演 3 では東京大学大学院薬学系研究科の楠原洋之先生に「トランスポーター介在性薬物相互作用の定量的予測と臨床研究」、特別講演 4 では獨協医科大学精神神経医学講座の古郡規雄先生に「精神科領域の個別化医療」をご講演頂いた。また教育講演では、福井県済生会病院内科の元雄良治先生に「がんサポーターケアにおける医療用漢方製剤の役割とエビデンス」をご講演頂いた。

市民公開講座は、秋田大学医学部衛生学・公衆衛生学講座の野村恭子先生に「人生 100 年時代の健康を考える：食事と運動の最新学術研究エビデンス」をご講演頂き、市民のかた 105 名にご講演頂いた。

特別企画シンポジウムとして、札幌医科大学附属病院の福土将秀先生、弘前大学医学部附属病院の新岡丈典先生に「Precision dosing のための医療技術の開発拡充を目指して」をご企画して頂き、4 名の先生方から医療技術の開発を目指した取り組みについてご講演頂き、ご討論頂いた。公募シンポジウムには 111 件の応募があり、選考委員による選考の結果 66 件を採択した。日本医療薬学会委員会企画として、がん専門薬剤師認定委員会、臨床研究推進委員会、薬物療法集中講義企画・運営小委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会の 4 つの委員会から 1 つずつシンポジウムが企画され、国際交流委員会から International Symposium として、「Messages for Pharmaceutical Health Care and Sciences in the Next Decade 1 と 2」の 2 セッションが企画され、シンポジウムとして計 73 セッションを実施した。

一般演題の口頭発表として、一般で 211 題、優秀演題エントリーに 166 題の計 377 題の応募と、ポスター発表に 1,109 題の応募があった。優秀演題候補 166 題から、1 次審査(8 名の審査員による高スコア順)により 40 題を選出し、学会 1 日目の 2 次審査によって優秀演題 8 題を決定した(優秀演題は下記参照)。口頭発表応募 377 題を審査の結果すべて採択したが、1 演題で取り消しがあり、376 題をキーワード別に 3 日間 75 セッションに分けた

(要旨集記載)。ポスター発表応募 1,109 題のうち 2 題を不採択とし、1,107 題を採択した。このうち 4 題で演題取り消しがあり、ポスター発表数は 1,103 題であった(要旨集記載)。

International Session では口頭に 19 題の応募があり、国際交流委員会での審査の結果、2 セッション枠の 10 題を口頭発表とし、ポスター発表は応募のあった 19 題と口頭からの 9 題を合わせて 28 題採択している。口頭発表の会員発表 9 題(1 名海外非会員)を優秀演題候補として、学会 1 日目に 2 次審査を行い、優秀演題 2 題を決定した(優秀演題は下記参照)。

単位認定に関しては、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位認定を行い、日病薬病院薬学認定薬剤師制度に関しては、現地参加、オンデマンド配信の両方でセッション毎に単位を取得できるようにした。現地参加ではオンデマンド配信と同様に、セッション毎に入退室管理を行い、QR コードの読み取り以外に、入退室の控えとして入退室記録を申請者のメールアドレスに自動送信するシステムを構築し、QR コードによる入退室管理に関するトラブル時には、証明となるメールを提示して頂く対策をとった。

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の集合研修単位は、現地参加者が対象で PECS の QR コードを用いて取得できるようになっていたが、本年会でこのシステムを用いて読み込んだ PC 内参加者ファイルデータがアップロードできないトラブル(原因不明)が生じ、単位申請者にご迷惑をおかけした。またオンデマンド配信を 2023 年 11 月 21 日から開始したが、1 日平均延べ 15,000 前後のアクセス件数と想定以上にアクセスが集中し、開始早々にサーバー障害を起こし閲覧できない状況となった。この件も聴講者にご迷惑をおかけした。現地開催でのトラブルはある程度、臨機応変に対応できることも、システム障害やエラーの場合、原因解明や対応に時間を要する。学会の運用方法が、単位シール配布やスライド映写などのアナログからデジタルへと変化してきたことに伴い、新たに生じてくるシステム障害への対応や防止策について検討しておく必要があると考える。こうしたトラブルはあったものの年會を盛會に終えることができたことに、ご協賛頂いた企業をはじめ、年會運営に携わって頂いたコンベンション、組織委員・実行委員の皆様、ご参加頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

一般演題応募数

	セッション	応募演題数	応募演題数	採択数	事前(直前)取り下げ	要旨集記載数
日	口頭発表	1,486	377	377	1(1)	376
	ポスター発表		1,109 うち不採択 2	1,107	4(2)	1,103
英	Oral	38	19(審査で 10 へ)	10	0	10
	Poster		19(口頭から+9)	28	4(2)	24
計						1,513

第 33 回日本医療薬学会年会 優秀演題一覧

演者氏名	筆頭演者所属	演題名
丸岡由奈	高知大学医学部附属病院	急性非代償性心不全患者における心臓機能に関連しない因子の生命予後に対する影響
三上龍生	北海道大学大学院薬学研究院	重症患者における過大腎クリアランスの発症時期および持続期間と関連因子の特定
大西真由	名古屋市立大学薬学部	ネットワークメタアナリシスによる新規抗リウマチ薬の有効性と安全性の比較検討
白石ちひろ	三重大学医学部附属病院	有害事象自発報告データベース及び診療録を用いたタゾバクタム/ピペラシリン及びメロペネムによる肝障害発現の要因に関する研究
祝千佳子	東京大学大学院医学系研究科	免疫チェックポイント阻害薬の使用歴が EGFR-TKI の間質性肺炎の関連：全国入院患者データベースを用いたマッチドペアコホート解析
大森崇行	聖路加国際病院	ペンタゾシン薬物動態/薬力学モデルによる小児術後鎮痛効果および呼吸抑制作用の予測
金子卓也	筑波大学附属病院	消化器癌患者における大量の腹水貯留はラムシルマブの血中濃度を低下させる
荻さやか	金沢大学医薬保健研究域薬学系	メトホルミンによるトランスポーターを介したグルコースの消化管吸収/排泄動態の変動
Tomoki Hori	Nara Prefecture General Medical Center	Effect of early dose reduction of osimertinib on efficacy in the first-line treatment for EGFR-positive non-small cell lung cancer
Ren Takahashi	Kyoto University Hospital	Population pharmacokinetic analysis and dosing optimization of tacrolimus in lung transplant recipients with itraconazole

優秀演題 1 次・2 次選考・公募シンポジウム審査をお引き受けくださった先生方

朝賀純一 岩手医科大学附属病院
 武隈 洋 北海道大学病院
 土屋雅美 宮城県立がんセンター
 藤田一馬 秋田大学医学部附属病院
 松本洋太郎 東北大学大学院薬学研究科
 新岡丈典 弘前大学医学部附属病院
 齊藤 伸 秋田県立循環器・脳脊髄センター
 本間真人 筑波大学附属病院

平井啓太 信州大学医学部附属病院
祖川倫太郎 佐賀大学医学部附属病院
伊東弘樹 大分大学医学部附属病院
山崎伸吾 千葉大学医学部附属病院
藤山信弘 秋田大学医学部附属病院
崔 吉道 金沢大学附属病院
土岐浩介 筑波大学附属病院
合田光寛 徳島大学病院
家入一郎 九州大学病院
中馬真幸 旭川医科大学病院
加賀谷英彰 秋田大学医学部附属病院
岩本卓也 三重大学医学部附属病院
菊地正史 東北大学病院
野田哲史 立命館大学
山口浩明 山形大学医学部附属病院
山本武人 東京大学医学部附属病院
横田隼人 秋田大学医学部附属病院
内藤隆文 信州大学医学部附属病院
嶋田 努 金沢大学附属病院
中村克徳 琉球大学病院
山本和宏 神戸大学医学部附属病院
赤嶺由美子 秋田大学医学部附属病院

(敬称略・順不同)